

12月のコラム 見えない思いが見えるものを生む

日の暮れるのがとても早くなりました。昼間の時間が一番短いのは、冬至ですが、日の入りが一番早いのは、この時期だそうです。知らないことばかりです。

先日、目に見えないもの（思い）が目に見えるものを作っていくという話を聞きました。プランクトンのような生命の誕生から魚へ、動物へ、鳥へというように進化してきたのは、例えば空を飛びたいという思いが子孫のDNAの中に伝承されていくからだという壮大な話で、その時は、そうなんだくらいにしか思っていなかったのですが、だんだん確かにと思えてきました。

例えば、病気を治したいという「思い」が新しい薬をつくり、この人が好きだという「気持ち」が家族という形になって表れ、喜びや悲しみや湧き上がってくる「感動」が絵や音楽を生み、何かを成し遂げたいという「情熱」が、仲間を集め組織や会社をつくる。企業における組織風土というのもきっとそういうものなのでしょう。仲間と一緒に悩み、励まし合い、協力し合いながら頑張ろうという思いが、優れた商品やサービスを生む。そしてその思いは、見えなのままその組織の中に財産として受け継がれていく。

「本当に大切なものは目に見えない」という言葉は、このコラムでも何度か取り上げていますが、逆に考えると同じことを言っているのですね。目に見える結果や手に入れるものは、それはそれで価値があるけれど、本当に価値があるのは、それが生み出された元々の思いと、その過程で注がれた情熱かもしれません。なぜ、これがここにあるのか。今、あらためて目の前にある物を見渡してみて、どれもこれも全て一つ一つが誰かの思いの産物だと思つとすごいことだなあと思います。短いコラムで書ききれぬ内容ではなかったですが、上手く伝われば嬉しいです。

今年も一年が終わります。毎月読んでいただき本当にありがとうございます。少し早いですが、どうぞ良いお年をお迎えくださいますように！

2016年12月 水田かほる